

大正末期から旧制松江高校（現島根大）で教壇に  
立ったドイツ人哲学者、フリッツ・カルシュ（18  
93〜1971年）の業績を顕彰する取り組みに、  
ドイツの大学関係者らが協力することが決まった。  
カルシュ研究の第一人者である若松秀俊東京医科歯  
科大名誉教授（71）が現地を訪れ  
て連携を打診し、快諾を得た。功績を紹介するドイ  
ツ語の本の出版や、山陰両県でカルシュが撮影した  
風物などを集めた写真展の開催を検討する。  
（陰山篤志）

## 旧制松江高で教壇・独哲学者



フリッツ・ユ  
ッセル（若松  
秀俊提供）  
さん

# カルシュ業績顕彰 母国教授らと連携

カルシュは松江ゆかりの  
文豪・小泉八雲の著書で日  
本に興味を持った。長崎で  
被爆しながら救護活動に尽  
力した雲南市出身の医師、  
永井隆博士らを教え子に持  
つ。人格者として知られ、  
八雲に劣らない重要な足跡  
を松江に残したとの評価が  
ある。カメラを愛し、松江  
や大山の写真を多く残した  
一方、日独での認知度は低  
く、業績の顕彰は進んでい  
なかった。

若松さんがこのほどドイ  
ツを訪問し、かねて交流の  
あった大学教授らと会い、

## 日本出版や写真展企画 研究者打診

助力を求めた。山陰ケー  
ブルビジョンが手掛けたカ  
ルシュの番組を流して人  
物像を紹介した際に「なぜ  
今まで取り上げなかった  
のか」との感想が寄せられ  
るほど関心を集めたとい  
う。

今後、大学教授らと連携  
し、功績を伝えるドイツ語  
の本の共同出版に向けて検  
討を重ねる。カルシュが残  
した1500枚を超す日本  
での写真も活用し、ドイツ  
各地での写真展開催を目指  
す。

カルシュの足跡をまとめ  
た若松さんの著書「四ツ手  
網の記憶」を大学図書館に  
寄贈し、地元での知名度向  
上も図る。若松さんは「日  
本とドイツで手を携えなが  
ら顕彰を進めたい」と意気  
込んだ。